躍進する！

関西の雄 名畑（なばた）グループ

第4回

外食産業は日本の文化だ!!

文・古野公喜（ジャーナリスト）

名畑豊社長が率いる業務用酒類食品卸業・株式会社「名畑」。2023年9月期の決算は前年比で1・3倍の年商153億円を記録した。コロナ禍で落ち込んだ業績を2年で2倍以上に回復し、過去最高を更新。関西では業界シェアNo.1企業に。だが、名畑社長は自社のみならず外食産業界全体の将来を見据えて手を緩めない。「外食産業は日本が誇れる文化だ。世界へ」と意気込む。

赤字だった家業を継いで大改革を敢行。2007年に3代目社長に就任して、2012年には年商80億円。右肩上がりで2019年には130億円にまで上昇した。新型コロナ禍の影響が大きかった外食産業界の煽りを受けて、2020年100億円、2021年75億円と落ち込んだが、2022年には115億円にまで回復。そして今年は当初138億円だった予算を4月に150億円に上方修正。最終的に153億円と業績を伸ばした。「市場は90%ぐらい戻ったか。（販売）数量的には少し落ちたが、物価上昇で商品単価が上がり、予想どおりにプラスになった」と名畑社長は分析した。

激動のコロナ禍を乗り越えて

振り返れば、激動の3年間だった。2020年春から新型コロナ禍で世の中は一変。観光客増、インバウンド効果もあって賑わっていた飲食業界、外食産業が大打撃を食らった。政府の非常事態宣言、外出自粛で営業できない店舗が続出。外食、飲酒を目の敵にするかのように、営業時間が極端に短縮され、酒類の提供を禁止するなど厳しい〝制限〟が設けられた。

名畑社長は外食産業界の将来を憂い、いくつも手を打った。政府が提唱した「マスク会食」。マスクの紐の一端を持って着けたり外したり…。その不便さを解消するために飲食専用マウスシールドを開発、販売した。ネーミングも「いただきマウス」とユニークな〝名畑流〟だ。フェイスシールドの口の部分が簡単に上げ下げ可能。大阪府、大阪市など行政に商品を説明し、営業短縮などの緩和を働きかけたが「一企業の話には対応してくれなかった」。テレビ、新聞などで何度も取り上げられたが、不発に終わった。売れ残った約5万個の在庫は社の倉庫に。「いつか世界のどこかで必要になったら贈ります」という。

また、コロナ禍の2020年10月にスタートし、今も続けているのが「光触媒コーティング」事業だ。「感染症予防に」と知人から勧められ、〝特殊部隊〟と呼ばれる6人で構成する社員が調査、研究した。3人が資格も取得した。飲食店の厨房、トイレ、バックヤードの外壁などにコーティング。永続的に「分解」「抗菌」「消臭」「防汚」の効果を発揮。除菌対策にはもってこいだ。実際、名畑社長も自身の携帯電話で効果を実感している。

結束する「名畑」の写真。前列左から7人目が名畑社長

コロナ禍に始めた事業。光触媒コーティング（左）とマウスシールド「いただきマウス」（右）

〝名畑〟のブランド力アップへ

コロナ禍から日常は戻りつつある。名畑社長の個人的な目標は、好きなゴルフで「今のハンデ11をシングルにする」。ベストスコアは73。「もう少し時間を割けられれば」と向上心は失っていない。一方、社長として、社員には「結果オーライは評価しない」と高いレベルを求めている。「やるべきことをやれているかをチェック。将来的に社のブランド力を上げることが大事だ」と長い目で先を見据える。社員の〝やらされ感〟は論外。新規の客開拓を推奨するより、既存の顧客の満足度を上げることに尽力させる。「それで人脈が広がり、評判を呼んでメーカーさんにも伝わる。支援することで応援してくださる顧客も増えます」。これまでも外食産業をサポートしていく中、大事にしてきたのは〝信頼〟の2文字だ。その〝信頼〟こそが業績を伸ばしてきた一番の要因だろう。

コロナ禍で飲食店が未期的状況になった際、この機にテイクアウトを始めたお得意様を一斉調査し、エリア別にして全社員に店舗リストを配布。社員の家族分の予算を渡し、社員の自宅の近所にあるお得意様でテイクアウト商品を購入する活動をした。「顧客にお金を落として支援の一端に」という発想だ。「後々、いろんな店舗の方から感謝の言葉を頂きました。嬉しかった。それが今につながってます」。

10年後、20年後を見据えて…

来年、「食王」は20回目を迎えるが、特別なことはやらない。「今年よりも進化」と開催の意義を考える。これからの外食産業界は配送や人手不足など抱える問題は山積みだ。接客の講習会も開催して好評。ワインや日本酒の講義も実施して、後々は合体させて「アカデミー」を設立して外食の専門家育成を目論む。「接客など日本の外食産業のレベルは高い。日本の文化として世界に広めたい。日本をもっと元気に。元気にできる産業だから」。名畑社長は10年後、20年後の外食産業界の発展を信じている。

ゴルフはハンデ11の腕前

名畑社長

Profile

名畑　豊　なばた・ゆたか

1962年12月20日大阪府豊中市出身の60歳。府立豊中高校、大阪大学経済学部を経て1985年にサントリーに入社。1990年秋に家業へ戻って専務に。2007年に代表取締役社長に就任した。趣味はゴルフでハンデ11、音楽鑑賞。家族は妻と2女、孫3人。

編集後記

筆者は名畑社長とは高校2、3年のクラスメートでした。彼は軟式テニス部で汗を流し、しっかり勉学にも励んでました。それ以上に「皆を笑わせる」のが好きで、イベントの打ち上げや修学旅行で、その才能を十二分に発揮していたのが昨日のことのように思い出されます。関西弁で言う“オモロイ奴”という印象の深かった“なばやん”をこういう形で取材することになるとは思ってもみませんでした。知り合ってから45年超え。先頭に立って会社を引っ張る“大人”になりましたが、根は変わらず“オモロイ奴”。ホッとさせられました（笑）。